

## 令和7年度 第1回 湯沢市総合振興計画審議会 議事録

- 1 日 時 令和7年7月29日(火) 14:00~16:00
- 2 会 場 湯沢市役所本庁舎4階 会議室41
- 3 出席委員 (敬称略) 【出席13名】  
和賀幸雄(湯沢商工会議所)、佐藤慶太(湯沢市観光物産協会)、  
高橋征志(こまち農業協同組合)高橋尚之(湯沢青年会議所)、  
高橋章(湯沢市雄勝郡医師)高橋みどり(湯沢市社会福祉協議会)、  
村上聖子(湯沢市スポーツ協会)、大橋清志(湯沢地区自治協議会)、  
遠藤幸作(稲川地域自治連絡協議会)、佐藤力(雄勝野づくり連絡協議会)、  
小野田敏昭(皆瀬地域自治組織地域づくり委員会)、築瀬栄美子(合同会社トマトクリエイション)、  
後藤孝(家庭教育支援チーム「和輪人」)
- 【欠席3名】  
佐藤養助(ゆざわ小町商工会)、石川隆一(湯沢7地区自治連絡協議会)、  
藤原久美子(小安峡温泉きらめき女子会)
- 4 案 件 (1) 第2次湯沢市総合振興計画の令和6年度実績について  
(2) 湯沢市過疎地域持続的発展計画の令和6年度実績について



## 案件での発言要旨

案件（１）第２次湯沢市総合振興計画の令和６年度実績について

案件（２）湯沢市過疎地域持続的発展計画の令和６年度実績について

（事務局から資料について説明）

○委員

希望あるまちづくりとして何をしようとしているのかがわかりません。私たち市民は一体どこに向かって進んで、どこに希望を見出したらいいのでしょうか。

●市

全国の地方都市において少子高齢化が進んでいますが、行政にできることとして、まずは子育て支援策を充実させるということに取り組んで参りました。例えば、小中学校の給食費や保育料を無償化し、マル福の対象を高校生まで拡大しました。今後は、妊娠から産後１年間までをマル福の対象としたいと思っています。その他、若い方々が住宅を取得・建設するのに対し１００万円補助する制度を立ち上げました。様々なことを絡ませ、子育てに優しいまちづくりを進めていきたいと考えています。

また、東北自動車道横堀道路が今年度中の開通となっておりますが、山形との県境で未整備となっている１５kmを１日も早く整備してもらえよう、商工会議所さんなどと一緒に取り組んでいかなければと思っています。これが整備されると、秋田県の物や人の流れが変わるのではないかと思いますので、これをチャンスと捉え、今から準備を進め、道の駅に降りてもらえる仕組みづくりやそこでの情報発信をしっかりやっていきたいと思っています。

他の自治体にはないこととしては、現在２つの地熱発電所が稼働していますが、さらに２つ整備していただいています。今後、様々な技術革新で地熱はもっとクローズアップされるのではないかと思いますので、新たな技術革新をするための候補地としてこの湯沢を選んでほしいと国にもお願いしています。

このことから、子育てのまち、地熱のまち、音楽のまちということ掲げて様々なことに取り組みたいと考えています。

○委員

国際交流について、台湾をターゲットにしていると思うが、戦略的な考えをお聞かせいただきたいです。

● インバウンドによる来日外国人の中で、台湾からいらっしゃる方の割合が最も高いということで、まずはターゲットにしています。以前から音楽イベントに参加していただくなどしていますが、そういったつながりや行政同士の連携、そして観光ツアー会社などの様々な方々をお願いしてお客さんをたくさん連れてきていただくということをやっているかなければならないと考えています。

ただ、観光の宣伝だけではなく、物産についても売れたらということで様々な画策しておりますので、これにつきましては、観光物産協会にお力添えいただければと思っております。

○委員 物産について、台湾はレッドオーシャンだという話があります。やり方としてはどういったプランでやっていくのかはもう少し練らないと行くだけ無駄になってしまうのではないかと思います。

○委員 不景気が続いてきている中で、企業誘致もいいとは思いますが、地場産業をされている方などの地域に根差した会社の方々への支援策も必要だと思います。

●市 今現在ある企業においても人材確保が大変だと思いますが、高校卒業後に湯沢を出て行った子供たちは帰りたい気持ちがあっても就職先がなくて帰れないという状況だと聞いています。そういった子供たちが一人でも多く帰ってくるため、就職の選択肢を増やしたいと考えています。

○委員 部活動の地域移行について、改めてしっかりお聞かせいただきたいです。

●市 すべての種目が順調に進んでいるとは言えない状況であると捉えています。大会の規定や指導者の考え方の統一感など、整えていかなければならない部分が多々ありますが、教育委員会としては、その部分を保護者と子供たちに伝えるのが不十分であったと思います。様々なご意見・ご要望をいただきながら進めているところですが、移行に際しては、保護者と子供たちに納得いただき、準備が整ったところから地域クラブとして出場できるようにしていきたいと思っております。

○委員

農業者の担い手育成確保対策事業について、新規就農者数は令和元年から年々減ってきていますが、その原因はあるのでしょうか。また、辞める方はいるのでしょうか。

●市

担い手育成確保対策事業における新規就業数は、国の交付金を活用して新規就農した方の人数となっており、交付金を活用せず親元で就農した方は含まれていません。実際には親元で就農している方が増えているパターンもあります。

交付金については、就農してから5年間で、生計を立てることが可能な収益を生むことを目標としていますが、うまくできずに途中で辞められる方もいます。逆に、交付金の受給を途中で止めながらも農業に従事している方もいます。

○委員

保健事業推進事業について、受診勧奨など非常に努力されていることを伺っておりますので、引き続きお願いしたいと思いますが、特定検診の受診率 50%に対して、胃がん検診等は非常に低い受診率となっています。やり方次第ではもっと受診率を上げられるのではないかと思います。

紙おむつの支給について、令和6年度から支給対象を住民税非課税世帯のみに変更したとのことですが、紙おむつ支給のために介護申請するという方も多くいらしたと思いますので、今後介護申請をしたいと思う方は減る可能性もあるのではないかと思います。

また、軽度の介護が必要な方への対策を打っていくことが必要であり、ケアマネージャーといった現場の人間をもっと充実させていかなければいけないと思います。介護を受けられる方には恵まれた施策が並んでいますが、介護を提供する側を手厚くしていくための施策が見当たらないため、次の計画を策定する際には、そういったところにも目配りした対策をぜひ盛り込んでいただければと思います。

○委員

一生懸命にやる気持ちが行政の人には欲しいと思います。そういった思いが住民にとってもいいアピールになり、「湯沢に住んでよかった。」という気持ちにつながるのではないかと思います。

○委員

コロナ禍においては、敬老会事業について式典を開催せずに記念品を贈呈する場合も補助金を出してくれましたが、今後も式典を開催せず、記念品を贈る形になったとしても補助対象として認めていただきたいです。

●市

敬老会事業については、コロナ禍となった令和2年度より、式典開催だけでなく、記念品の贈呈も補助対象に加えたところ です。ほかの地域からもコロナ禍が明けても記念品の配布について継続して補助してほしいという要望をいただいています。昨年度の開催状況としましては、記念品のみ の配布とした地区が10地区に上ったため、今年度も継続して補助対象として います。今後につきましても、様々な意見をいただきながら検討していき たいと思います。

○委員

地熱発電について、地域の人にはどんなメリットがあるのかよく聞かれます。税金的事項はわかりますが、もう少し何かメリットを発信した方が 良いのではないかと 思います。

●市

今現在の電気の売上の制度だと、地熱発電由来の再生可能エネルギーを 購入するという場合は非化石由来エネルギーであることの証明書 をもらわなければならず、逆に電気料にプラスして手数料がかかって しまいます。秋田銀行さんなどの企業ではそれを払っているため再生可能 エネルギーを利用していることを宣言することができます。市民の皆さまからは安くならないのかとよく言われますが、現在の制度は 参入企業を増やすための設計になっており、地域の恩恵としてはなかなか 難しいところがあります。国へは制度設計を変えていただくよう要望は していますが、まだ時間はかかるのではないかと 思います。ただ、これから新たに2つの発電所ができると、電源立地交付金として10億円ほど市に入る予定となっています。また、固定資産税のアップや建設工事の受注なども期待されます。大きな企業ですので、社会貢献も意識して いただいております。こちらからもお願いしながら効果の見える化をしていかなければならないと考えています。

○委員

市民満足度調査について、1,400人に対して実施していますが、もっと対象を増やすことは技術的あるいは費用的に難しいのでしょうか。

●市

送付対象数については、統計学上必要な数となっており、対象を増やしたことによって結果が大きく変わることはありません。

○委員

有害鳥獣対策について、子どもたちの通学時間帯に熊が出没しないか心配です。今年は山が不作であると聞いています。これから秋に向け、農作物対策を含めさらに強力な熊対策が必要だと思えます。

●市

熊、イノシシの市街地出没については新聞やテレビ等で見かけることが多くなってきており、湯沢市においても市街地で目撃されたケースがあります。目撃情報があった場合は、保護者に送迎をお願いするといった対策をとっております。

農作物対策としては、電気柵やクマが嫌うにおいをつけた柵などがありますが、慣れると効力が落ちてくる部分はあるのではないかと思います。また、鳥獣保護管理法の改正により、市町村長の責任において市街地での発砲が可能になり、これについての説明会が近々開催される予定です。

現状では、出没を回避するという事はなかなか厳しいですが、県の水と緑の森づくり税という事業では、道路から 30m の地点に緩衝帯を設置するといったことを継続して取り組んでいます。出てこないような措置、そして出てきた後の対処については市だけでできる話ではなく、警察やその他の機関と協力しながら対応しているのが現状です。

●市

熊の目撃情報が寄せられた際に、学校の判断あるいは教育委員会と相談したうえで、保護者に送迎を依頼したケースが多々ありました。下校の時間帯では保護者の都合がつかない場合もありますので、送迎可能な時間まで児童を待機させるといった配慮をしています。

○委員

東北自動車道の開通に合わせ、道の駅おがちからつながる道路の整備がされており、賑わい創出に期待しているところですが、完成はいつ頃になるのでしょうか。

また、少子高齢化社会の中で、子育て施策に力を入れるのはわかりませんが、産業振興による生活基盤の強化が大事だと思います。就業機会を増やす工業団地は力を入れて取り組んでいただきたいです。

●市

横堀道路整備と雄勝こまち IC 移設については国の方で事業を進めており、今年度中の開通と伺っています。新たに国からの情報がありましたら、市民の皆さまにもお伝えしようと思っています。

○委員

市民満足度調査の結果について、湯沢市に愛着や誇りを持っている人の割合が高いのに対し、住み続けたいと思う人の割合は低くなっています。現在湯沢市に住んでいる方々が別の地へ移りたいと思う理由としては、冬期間の除雪や交通の便、商業施設の充実度が挙げられますが、今後市として民間とどのように協議し進めていくのかお聞かせいただきたいです。

●市

住んでいる方々が故郷に誇りを持たなければ、他の地域から人を呼ぶことはできないということをしっかりと認識して施策を展開していかなければならないと思っています。高齢者の方々からお話を聞くと、通院や買い物の交通手段の確保が困難とのことですので、公共交通の確保は今後もしっかり取り組まなければなりません。また、雪が降らないところに引っ越したいというお話もよく聞きますが、雪が降るという覚悟のもと、除雪はしっかりやって行きたいと思います。玄関の除雪につきましても、ボランティアや社会福祉協議会さんなどと協力しながら市で様々な制度を作り、除雪作業が困難な方へのフォローをしていかなければならないと思います。やはり外から人を呼ぶだけでなく、今住んでいる方々の満足度を上げていく策も併せてやっていかなければと思います。